

# 基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更								
フリガナ設置者	ガッコウメイジイン メイジダイク								
フリガナ大学の名称	メイジダイクダイクケン								
大学本部の位置	明治大学大学院 (Meiji University Graduate School)								
大学本部の位置	東京都千代田区神田駿河台1-1								
大学院の目的	学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性の求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を養い、文化の発展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	21世紀において人類が直面している諸課題を、総合的・学際的に考察し、しかも公共的観点に立って主体的に行動することのできる人材の養成を目的とする。教育研究のテーマとしては、「人間性とその適正な環境の探究」を掲げ、新しい「知の創造（デザイン）」を目指す。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	教養デザイン研究科 [Graduate school of Humanities] 教養デザイン専攻 [Course in Humanities] 計	3	4	—	12	博士(学術)	平成22年4月第1年次	(和泉校舎) 東京都杉並区永福1-9-1	
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	情報コミュニケーション研究科情報コミュニケーション学専攻課程変更(平成21年5月届出予定) 理工学研究科新領域創造専攻課程変更(平成21年5月届出予定) 文学部文学科〔定員増〕(15)(平成21年6月認可申請予定) 法務研究科法務専攻〔定員減〕(△30)(平成21年6月届出予定)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
	教養デザイン研究科教養デザイン専攻	講義	演習	実験・実習	計	20単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員	
	新設分	教養デザイン研究科教養デザイン専攻(博士後期課程)	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
		計	20(20)	3(3)	1(1)	0(0)	24(24)	0(0)	0(0)
	既設	法学研究科 公法学専攻(博士前期課程)	15(15)	4(4)	0(0)	0(0)	19(19)	0(0)	4(4)
		公法学専攻(博士後期課程)	13(13)	0(0)	0(0)	0(0)	13(13)	0(0)	1(1)
		民事法学専攻(博士前期課程)	19(19)	1(1)	0(0)	0(0)	20(20)	0(0)	4(4)
		民事法学専攻(博士後期課程)	15(15)	0(0)	0(0)	0(0)	15(15)	0(0)	1(1)
		商学研究科 商学専攻(博士前期課程)	47(47)	0(0)	0(0)	0(0)	47(47)	0(0)	5(5)
		商学専攻(博士後期課程)	35(35)	0(0)	0(0)	0(0)	35(35)	0(0)	2(2)
		政治経済学研究科 政治学専攻(博士前期課程)	19(19)	4(4)	0(0)	0(0)	23(23)	0(0)	8(8)
		政治学専攻(博士後期課程)	19(19)	1(1)	0(0)	0(0)	20(20)	0(0)	1(1)
		経済学専攻(博士前期課程)	29(29)	7(7)	0(0)	0(0)	36(36)	0(0)	2(2)
		経済学専攻(博士後期課程)	27(27)	2(2)	0(0)	0(0)	29(29)	0(0)	0(0)
	既設	経営学研究科 経営学専攻(博士前期課程)	33(33)	1(1)	0(0)	0(0)	34(34)	0(0)	13(13)
		経営学専攻(博士後期課程)	27(27)	0(0)	0(0)	0(0)	27(27)	0(0)	0(0)
		文学研究科 日本文学専攻(博士前期課程)	5(5)	1(1)	1(1)	0(0)	7(7)	0(0)	4(4)
日本文学専攻(博士後期課程)		5(5)	1(1)	0(0)	0(0)	6(6)	0(0)	0(0)	

教 員 組 織 の 概 要	既 設	文学研究科	英文学専攻 (博士前期課程)	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	1 (1)	平成21年5月届出予定
			英文学専攻 (博士後期課程)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	
			仏文学専攻 (博士前期課程)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	3 (3)	
			仏文学専攻 (博士後期課程)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	
			独文学専攻 (博士前期課程)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	
			独文学専攻 (博士後期課程)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	
			演劇学専攻 (博士前期課程)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	
			演劇学専攻 (博士後期課程)	4 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (2)	0 (0)	0 (0)	
			史学専攻 (博士前期課程)	19 (19)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	10 (10)	
			史学専攻 (博士後期課程)	19 (19)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	0 (0)	
			地理学専攻 (博士前期課程)	7 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (6)	0 (0)	3 (3)	
			地理学専攻 (博士後期課程)	7 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (6)	0 (0)	0 (0)	
			臨床人間学専攻 (博士前期課程)	12 (12)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	19 (19)	
			臨床人間学専攻 (博士後期課程)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	
			情報コミュニケーション研究科	10 (10)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	16 (17)	
			情報コミュニケーション学専攻 (博士前期課程)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	
			情報コミュニケーション学専攻 (博士後期課程)	22 (22)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	1 (1)	
			教養デザイン研究科	16 (16)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	6 (6)	
			電気工学専攻 (博士前期課程)	16 (16)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	0 (0)	
			電気工学専攻 (博士後期課程)	18 (18)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	4 (4)	
			機械工学専攻 (博士前期課程)	18 (18)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	0 (0)	
			機械工学専攻 (博士後期課程)	6 (6)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	22 (22)	
			建築学専攻 (博士前期課程)	6 (6)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	
			建築学専攻 (博士後期課程)	8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	5 (5)	
			応用化学専攻 (博士前期課程)	8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	
			応用化学専攻 (博士後期課程)	26 (26)	10 (10)	2 (2)	0 (0)	38 (38)	0 (0)	35 (35)	
			基礎理工学専攻 (博士前期課程)	28 (28)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	0 (0)	
			基礎理工学専攻 (博士後期課程)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	16 (16)	
			新領域創造専攻 (博士前期課程)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	
			新領域創造専攻 (博士後期課程)	6 (6)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	5 (5)	
			農学研究科	6 (6)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	
			農芸化学専攻 (博士前期課程)	13 (13)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	14 (14)	
			農芸化学専攻 (博士後期課程)	12 (12)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	
			農学専攻 (博士前期課程)	6 (6)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	6 (6)	
	農学専攻 (博士後期課程)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)			
	農業経済学専攻 (博士前期課程)	8 (8)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	9 (9)			
	農業経済学専攻 (博士後期課程)	8 (8)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	0 (0)			
	生命科学専攻 (博士前期課程)	8 (8)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	0 (0)			
	生命科学専攻 (博士後期課程)										

教員組織の概要	既設分	ガバナンス研究科 ガバナンス専攻	10 (10)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	26 (26)	
		グローバル・ビジネス研究科 グローバル・ビジネス専攻	12 (12)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	45 (45)	
		会計専門職研究科 会計専門職専攻	12 (12)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	14 (14)	
		法務研究科 法務専攻	53 (53)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	56 (56)	0 (0)	20 (20)	
		計	778 (774)	150 (150)	19 (19)	0 (0)	947 (943)	0 (0)	328 (329)	
合計		798 (794)	153 (153)	20 (20)	0 (0)	971 (967)	0 (0)	328 (329)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		414 (414)		311 (311)		725 (725)			
	技術職員		31 (31)		43 (43)		74 (74)			
	図書館専門職員		31 (31)		13 (13)		44 (44)			
	その他の職員		34 (34)		22 (22)		56 (56)			
計		510 (510)		389 (389)		899 (899)				
校地等	区分	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計			
	校舎敷地	238,187㎡	0㎡		0㎡		238,187㎡			
	運動場用地	368,691㎡	0㎡		0㎡		368,691㎡			
	小計	606,878㎡	0㎡		0㎡		606,878㎡			
	その他	307,144㎡	0㎡		0㎡		307,144㎡			
合計		914,022㎡	0㎡		0㎡		914,022㎡			
校舎		専用	共用		共用する他の学校等の専用		計			
		280,781㎡ (280,781㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		280,781㎡ (280,781㎡)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設			
	241室	164室	381室		30室 (補助職員150人)		23室 (補助職員20人)			
専任教員研究室		新設学部等の名称			室数					
		教養デザイン研究科 (博士後期課程)			24室					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	教養デザイン研究科 教養デザイン専攻	216,300 [109,600] (215,100 [108,900])	1,971 [712] (1,971 [712])		6パッケージ9,197タイトル (38,276)	38,276 (38,276)	0 (0)	0 (0)		
	計	216,300 [109,600] (215,100 [108,900])	1,971 [712] (1,971 [712])		6パッケージ9,197タイトル (38,276)	38,276 (38,276)	0 (0)	0 (0)		
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数				
		23,914㎡		3,110		2,430,416				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		12,449㎡		バレーコート, テニスコート, ゴルフ練習場, プール等						
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等		1,813千円	1,842千円	1,871千円	—千円	—千円	—千円	
		共同研究費等		81,069千円	82,366千円	83,684千円	—千円	—千円	—千円	
		図書購入費	68千円	80千円	95千円	109千円	—千円	—千円	—千円	
	設備購入費	—千円	196千円	260千円	328千円	—千円	—千円	—千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	800千円	520千円	520千円	—千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			補助金, 資産運用の果実及び寄附金その他の収入をもって維持運営する							

大学全体  
補助職員にTAを含む

1. 申請研究科全体  
2. 電子ジャーナルは外国書込みの数  
3. 視聴覚資料は大学全体

保存書庫を含む

体育館には駿河台スポーツホールを含む

既設大学の名称	明治大学								所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
大 学 等 の 状 況	法学部								【法学部・商学部】	平成13年度より学生募集停止
	法律学科	4	900	—	3600	学士（法学）	1.06	昭和24年	政治経済学部	
	商学部								文学部・経営学部】	
	商学科	4	1020	—	4080	学士（商学）	1.05	昭和24年	（1～2年次）	
	産業経営学科	4	—	—	—	—	—	昭和24年	東京都杉並区永福1-9-1	
	政治経済学部									
	政治学科	4	260	—	1040	学士（政治学）	1.08	昭和24年		
	経済学科	4	660	—	2640	学士（経済学）	1.14	昭和24年	（3～4年次）	
	地域行政学科	4	150	—	600	学士（地域行政学）	1.13	平成14年	東京都千代田区	
	文学部								神田駿河台一丁目1番地	
	文学科	4	400	—	1600	学士（文学）	1.14	昭和24年		
	史学地理学科	4	245	—	980	学士（文学）	1.15	昭和24年		
	心理社会学科	4	75	—	300	学士（文学）	1.20	平成14年		
	経営学部									
	経営学科	4	380	—	1520	学士（経営学）	1.16	昭和28年		
	会計学科	4	170	—	680	学士（経営学）	0.98	平成14年		
	公共経営学科	4	100	—	400	学士（経営学）	1.13	平成14年		
	情報コミュニケーション学部									
	情報コミュニケーション学科	4	400	—	1600	学士（情報コミュニケーション学）	1.11	平成16年		
	国際日本学部								【国際日本学部】	
国際日本学科	4	300	—	1200	学士（国際日本学）	1.17	平成20年	東京都杉並区永福1-9-1		
理工学部										
電気電子工学科	4	—	—	—	—	—	平成元年	【理工学部・農学部】		
電子通信工学科	4	—	—	—	—	—	平成元年	神奈川県川崎市		
電気電子生命学科	4	220	—	880	学士（工学）	1.03	平成19年	多摩区東三田1-1-1		
機械工学科	4	120	—	480	学士（工学）	1.10	平成元年			
機械情報工学科	4	120	—	480	学士（工学）	1.09	平成元年			
建築学科	4	140	—	560	学士（工学）	1.10	平成元年			
応用化学科	4	110	—	440	学士（工学）	1.26	平成元年			
情報科学科	4	105	—	420	学士（理学）	1.16	平成元年			
数学科	4	55	—	220	学士（理学）	1.15	平成元年			
物理学科	4	55	—	220	学士（理学）	1.22	平成元年			
農学部										
農学科	4	130	—	520	学士（農学）	1.17	昭和24年			
食料環境政策学科	4	130	—	520	学士（農学）	1.23	昭和24年			
農芸化学科	4	130	—	520	学士（農学）	1.12	昭和28年			
生命科学科	4	130	—	520	学士（農学）	1.16	平成12年度			
法学部（二部）										
法律学科	4	—	—	—	—	—	昭和24年			
商学部（二部）										
商学科	4	—	—	—	—	—	昭和24年			
産業経営学科	4	—	—	—	—	—	昭和24年			
政治経済学部（二部）										
政治学科	4	—	—	—	—	—	昭和24年			
経済学科	4	—	—	—	—	—	昭和24年			
文学部（二部）										
文学科	4	—	—	—	—	—	昭和24年			
史学地理学科	4	—	—	—	—	—	昭和24年			

既設大学等の名称	明治大学大学院								
	学部の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
大 学 の 状 況	法学研究科								東京都千代田区 神田駿河台一丁目 1番地
	公法学専攻								
	博士前期課程	2	25	—	50	修士（法学）	0.50	昭和27年	
	博士後期課程	3	6	—	18	博士（法学）	0.61	昭和29年	
	民事法学専攻								
	博士前期課程	2	25	—	50	修士（法学）	0.36	昭和27年	
	博士後期課程	3	6	—	18	博士（法学）	0.22	昭和29年	
	商学研究科								
	商学専攻								
	博士前期課程	2	35	—	70	修士（商学）	0.69	昭和27年	
	博士後期課程	3	6	—	18	博士（商学）	1.16	昭和29年	
	政治経済学研究科								
	政治学専攻								
	博士前期課程	2	25	—	50	修士（政治学）	0.50	昭和27年	
	博士後期課程	3	5	—	15	博士（政治学）	1.26	昭和29年	
	経済学専攻								
	博士前期課程	2	35	—	70	修士（経済学）	0.48	昭和27年	
	博士後期課程	3	7	—	21	博士（経済学）	0.28	昭和38年	
	経営学研究科								
	経営学専攻								
	博士前期課程	2	40	—	80	修士（経営学）	1.03	昭和34年	
	博士後期課程	3	8	—	24	博士（経営学）	0.75	昭和34年	
	文学研究科								
	日本文学専攻								
博士前期課程	2	6	—	12	修士（文学）	1.83	昭和39年		
博士後期課程	3	2	—	6	博士（文学）	3.16	昭和39年		
英文学専攻									
博士前期課程	2	6	—	12	修士（文学）	1.00	昭和39年		
博士後期課程	3	2	—	6	博士（文学）	0.16	昭和39年		
仏文学専攻									
博士前期課程	2	6	—	12	修士（文学）	0.74	昭和39年		
博士後期課程	3	2	—	6	博士（文学）	0.66	昭和39年		
独文学専攻									
博士前期課程	2	6	—	12	修士（文学）	0.66	昭和46年		
博士後期課程	3	2	—	6	博士（文学）	0.00	昭和49年		
演劇学専攻									
博士前期課程	2	6	—	12	修士（文学）	0.41	昭和46年		
博士後期課程	3	1	—	3	博士（文学）	0.33	昭和49年		
史学専攻									
博士前期課程	2	25	—	50	修士（史学）	0.80	昭和32年		
博士後期課程	3	6	—	18	博士（史学）	1.38	昭和32年		
地理学専攻									
博士前期課程	2	5	—	10	修士（地理学）	0.40	昭和32年		
博士後期課程	3	2	—	6	博士（地理学）	0.66	昭和39年		
臨床人間学専攻									
博士前期課程	2	14	—	28	修士（人間学）	0.74	平成17年		
博士後期課程	3	4	—	12	博士（人間学）	0.58	平成19年		

既設	情報コミュニケーション研究科 情報コミュニケーション学専攻 修士課程	2	25	—	50	修士 (情報コミュニケーション)	0.38	平成20年	東京都杉並区 永福1-9-1	
	教養デザイン研究科 教養デザイン専攻 修士課程	2	20	—	40	修士 (学術)	0.55	平成20年		
大	理工学研究科 電気工学専攻 博士前期課程	2	75	—	150	修士 (工学・学術)	0.93	平成5年	神奈川県川崎市 多摩区東三田1-1-1	
	博士後期課程	3	6	—	18	博士 (工学・学術)	0.60	平成5年		
学	機械工学専攻 博士前期課程	2	77	—	154	修士 (工学・学術)	0.86	平成5年		
	博士後期課程	3	7	—	21	博士 (工学・学術)	0.28	平成5年		
の	建築学専攻 博士前期課程	2	56	—	112	修士 (工学・学術)	0.70	平成5年		
	博士後期課程	3	5	—	15	博士 (工学・学術)	0.00	平成5年		
等	応用化学専攻 博士前期課程	2	35	—	70	修士 (工学・学術)	1.28	平成5年		
	博士後期課程	3	5	—	15	博士 (工学・学術)	0.40	平成5年		
状	基礎理工学専攻 博士前期課程	2	61	—	122	修士 (工学・理学・学術)	0.75	平成5年		
	博士後期課程	3	10	—	30	博士 (工学・理学・学術)	0.60	平成7年		
況	新領域創造専攻 修士課程	2	50	—	100	修士 (工学・理学・学術)	0.57	平成20年		
	農学研究科 農芸化学専攻 博士前期課程	2	26	—	52	修士(農学)	0.95	昭和34年		
大	博士後期課程	3	2	—	6	博士(農学)	0.33	昭和53年		
	農学専攻 博士前期課程	2	20	—	40	修士(農学)	0.95	昭和53年		
学	博士後期課程	3	2	—	6	博士(農学)	0.66	平成2年		
	農業経済学専攻 博士前期課程	2	8	—	16	修士(農学)	0.62	昭和53年		
の	博士後期課程	3	2	—	6	博士(農学)	0.16	平成2年		
	生命科学専攻 博士前期課程	2	26	—	52	修士(農学)	1.34	平成15年		
状	博士後期課程	3	2	—	6	博士(農学)	0.83	平成15年		
	大学  の  名  称	明 治 大 学 専 門 職 大 学 院								
況	学 部 等  の  名  称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍			
大	ガバナンス研究科 ガバナンス専攻	2	—	—	—	修士(公共政策学)		平成16年	東京都千代田区 神田駿河台一丁目 1番地	平成19年度より学 生募集停止
	ガバナンス専攻	2	50	—	100	公共政策修士 (専門職)	0.71	平成19年		
学	グローバル・ビジネス研究科 グローバル・ビジネス専攻	2	80	—	160	経営管理修士 (専門職)	1.01	平成16年		
	法務研究科 法務専攻	3	200	—	600	法務博士 (専門職)	0.98	平成16年		
の	会計専門職研究科 会計専門職専攻	2	80	—	160	会計修士 (専門職)	1.06	平成17年		

附属施設の概要	<p>名称：図書館  目的：教育・研究の中核的機関として総合的な教養涵養及び専門的研究の積極的支援を担う  所在地：（中央図書館）東京都千代田区神田駿河台1-1  （和泉図書館）東京都杉並区永福1-9-1  （生田図書館）神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1  規模：23,914㎡（蔵書約231万冊，新聞・雑誌約2万タイトル，マイクロ資料，CD-ROM等の資料を所蔵）</p>
	<p>名称：研究所（社会科学研究所・人文科学研究所・科学技術研究所）  目的：明治大学における研究の基盤を担い，その専門分野について精深な研究及び調査を行い，学術の進歩発展に寄与する  設置年月日：昭和34年4月</p>
	<p>名称：博物館  目的：資料等の収集，整理，保存及び展示を行い，明治大学の学生，教職員，校友並びに一般公衆の利用に供し，教育・研究に資するための事業を行う  所在地：東京都千代田区神田駿河台1-1 アカデミーコモン地階  規模：商品部門，刑事部門，考古部門の3部門を持つ</p>
	<p>名称：国際交流センター  目的：外国の教育研究機関及び外国人学識者との学術・文化交流を促進し，本学の専任教職員及び学生の教育研究に資する  所在地：東京都千代田区神田駿河台1-1 研究棟3階  設置年月日：昭和61年4月</p>
	<p>名称：心理臨床センター  目的：臨床心理学的諸問題にかかわる相談・援助活動及び調査・研究を行うことにより，社会貢献を図るとともに，実習機関として臨床心理士の養成を行い，本大学の教育・研究に資する  所在地：東京都千代田区神田駿河台1-1 アカデミーコモン7階  設置年月日：平成16年4月  規模：246㎡（面接室3，遊戯療法室2，待合室2）</p>
	<p>名称：工作工場  目的：理工学部（主に機械系）学生に，教科目として教種の簡単な機械要素製作を行わせることにより，工作機械における基本的な加工技術を習得させ，機会の設計・製作に関する全体的な理解を深めることを設置の目的としている  所在地：神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1 生田キャンパス内</p>
<p>名称：農場（菅田農場）  目的：農学部附属農場として，農場を擁し専任教職員により各専門分野の研究を行うと同時に農場実習・畜産実習等の実習教育に利用している  菅田農場  所在地：千葉県千葉市  規模：総面積26ha，農耕面積6ha，グラウンドと実習農場に利用されている  野菜・果樹等園芸作物の生産増に重点を置いている</p>	

教 育 課 程 等 の 概 要

(教養デザイン研究科 教養デザイン専攻(D))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
コース必修科目	研究論文指導Ⅰ	1前	2				○		13	1				V・VIは2013年度には教授13名、准教授1名が担当
	研究論文指導Ⅱ	1後	2				○		13	1				
	研究論文指導Ⅲ	2前	2				○		13	1				
	研究論文指導Ⅳ	2後	2				○		13	1				
	研究論文指導Ⅴ	3前	2				○		7	1				
	研究論文指導Ⅵ	3後	2				○		7	1				
	小計(6科目)	—	—	12	0	0	—	—	13	1	0	0	0	
コース選択必修科目	「倫理・哲学・宗教」領域研究	1・2・3前	2			○			1					
	哲学特別研究	1・2・3後	2			○			1					
	宗教学特別研究	1・2・3前後	2			○			2					
	思想史特別研究	1・2・3後	2			○			1					
	小計(4科目)	—	—	8	0	0	—	—	5	0	0	0	0	
	「文化」領域研究	1・2・3前後	2			○			1	1				
	地域文化特別研究	1・2・3前後	2			○			3					
	言語文化特別研究	1・2・3前後	2			○			1	1				
	小計(3科目)	—	—	6	0	0	—	—	5	2	0	0	0	
	「平和・環境」領域研究	1・2・3前後	2			○			3					
	地球環境特別研究	1・2・3前後	2			○			2					
	科学技術史特別研究	1・2・3後	2			○					1			
	小計(3科目)	—	—	6	0	0	—	—	5	0	1	0	0	
共通科目	現代教養総合研究Ⅰ	1・2・3前		2		○			2					
	現代教養総合研究Ⅱ	1・2・3後		2		○			1					
	小計(2科目)	—	—	0	4	0	—	—	3	0	0	0	0	
博士後期課程	先端数理科学Ⅰ	1前			2	○							兼1	集中
	先端数理科学Ⅱ	1後			2	○							兼1	集中
	Advanced Mathematical SciencesⅠ	1前			2	○							兼1	集中
	Advanced Mathematical SciencesⅡ	1後			2	○							兼1	集中
	日本古代学(考古学)Ⅰ	1前			2	○							兼1	
	日本古代学(考古学)Ⅱ	1後			2	○							兼1	
	小計(6科目)	—	—	0	0	12	—	—	0	0	0	0	0	兼4
合計(24科目)			—	32	4	12	—	—	20	3	1	0	0	兼4

学位又は称号 博士(学術) 学位又は学科の分野 文学関係

教 育 課 程 の 編 成 方 針

本研究科博士後期課程は、高度な「現代教養」を身につけた研究者養成を目指している。「現代教養」とは、世界が現在直面している諸課題に対し、解決するために必要な知識と行動へと結びつく価値観との複合体である。領域研究コースとして、「倫理・哲学・宗教」「文化」「平和・環境」の3つを設置する。「倫理・哲学・宗教」領域研究では生命や環境などにおける現代倫理の考察、「文化」領域研究では高度な言語能力と多文化理解、「平和・環境」領域研究では開発による環境破壊までを含む平和構築を教育研究の対象とする。「研究論文指導」を中心としながらも、他コースの「特別研究」を履修させ、かつ研究指導教員全員が参加する「現代教養総合研究」を配置して、3つの領域研究が有機的に結びつく教育課程を編成する。

卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法

授 業 期 間 等

①学位論文作成のため、指導教員による必要な研究指導を受けなければならない。②「倫理・哲学・宗教」領域研究科目、「文化」領域研究科目及び「平和・環境」領域研究科目の中から、いずれかの領域研究科目を所属コースとして選定する。③所属コースの研究論文指導Ⅰ～Ⅵ(各2単位)合計12単位を必修とする。④上記12単位に加え、所属コースの特別研究の中から4単位以上、所属コース以外の特別研究若しくは共通選択科目又は博士前期課程の特論科目の中から4単位以上、合計20単位以上を修得しなければならない。⑤指導教員が研究指導上必要と認めた場合には、他研究科(専門職学位課程を含む。)の授業科目及び別表1の2に規定する研究科間共通科目を履修することができる。	1学年の学期区分	2	期
	1学期の授業期間	15	週
	1時限の授業時間	90	分



授 業 科 目 の 概 要			
(教養デザイン研究科 教養デザイン専攻(D))			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース 必修 科目	(研究指導) 研究論文指導Ⅰ 研究論文指導Ⅱ 研究論文指導Ⅲ 研究論文指導Ⅳ 研究論文指導Ⅴ 研究論文指導Ⅵ	「人間性とその適正な環境の探求」という教育研究の統一的テーマの下、博士論文提出に主眼を置いた研究指導を行う。「倫理・哲学・宗教」「文化」「平和・環境」の3つの研究領域を視点とし、当該学生の主体的な研究活動を支援し、さらにこれを高度化させる。	
		(1 林 雅彦) 我が国の平安末期（院政期）以降における仏教と庶民信仰・唱導文化・仏教民俗学・図像学などの領域に関わる研究者・研究指導者を育成するために、原則として学生の博士学位論文提出に主眼を置いた研究指導を行う。	
		(2 山泉 進) 幸徳秋水の帝国主義批判、社会民主党（1901年結成）の平和主義、平民社の非戦論、トルストイ思想の影響、直接行動論と議会政策論、大逆事件をテーマに研究指導を行う。	
		(3 金山 秋男) 学生本人の研究テーマに従って、そのテーマの根源をなす宗教研究を行い、その成果を博士論文にまとめることができるように指導する。大乘仏教思想の本質をおさえた上で、そこから派生してきた各宗派独特の宗教哲学を掘り下げるとともに、本人の研究対象への洞察を宗教的に深めることに主眼を置く。	
		(4 斎藤 英治) アメリカの文学およびアメリカ映画を中心にした表象文化を対象に研究指導を行うが、領域横断的な研究に関しても扱う予定である。研究論文を日本語で書くか、英語で書くかにもよるが、どちらにしても、明晰な論文執筆のための指導を適時行っていく。	
		(5 櫻井 直文) 主に、倫理学と倫理思想史にかかわる諸問題や、ヨーロッパの社会哲学、現代の公共哲学に関する諸問題を研究対象とする学生が適切な問いを発見し、それを展開し、一つの答えに結びつけ、学位論文として完成するにいたるまでの指導を行う。	
		(6 岩野 卓司) 思想史とは何かを考えていきながら、思想史という分野で研究することの意義を考えていく。既存の「思想史」研究の本を読みながら、思想史研究のための問いと思想史についての問いを身に着ける必要がある。思想史は何を追及する学問なのか、その領域と方法について説明しながら、まずは学生に思想史研究を自覚させる。そのうえで、研究テーマを提出させ、問い方についてともに考えていく。	
		(7 高遠 弘美) 藝術作品を理解するために何をしたらいいのか。藝術作品は文学を含め、作者との関係をどうとらえ、作品が開示してくれる秘密をどう受け止めるかによって、相貌を著しく変える。研究と鑑賞をどのように合致させてゆくかについて研究指導を行う。 一年から三年まで同一テーマをより深く追求する場合もあれば、毎年異なるテーマに挑んでもらう場合もある。それは具体的には学生を見ながらの策定となる。	
(8 広沢 絵里子) 「文化とアイデンティティ表現」をテーマとし、芸術表現（文学、映画、パフォーマンス、造形美術、博物館展示等）をはじめとするさまざまな文化現象における、個人および集団のアイデンティティの表現について研究指導を行う。			

## 授 業 科 目 の 概 要

(教養デザイン研究科 教養デザイン専攻(D))

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
コース必修科目		(9 王 楽平) 「平和や環境」という側面から、「人間性とその適正な環境を探求する」自立的思考と行動力を有する人材育成を目標とし、学生の博士論文提出に主眼を置いた研究指導を行う。研究課題は、主に経済開発と平和構築システムの確立や条件の比較研究である。		
		(10 鳥居 高) 「平和や環境」という視点から、「人間性とその適正な環境を探求する」ことを目指した自立的思考と行動力を有する人材育成を目標とし、学生の博士論文提出に主眼を置いた研究指導を行う。具体的には、「平和・環境領域研究」を行う学生を対象とする。研究課題は、民族紛争・宗教紛争、さらには経済開発と平和構築システムやその条件の比較研究である。		
		(11 小畑 精和) 音声に始まり、絵画、音楽、文字、映像、あるいはそれらが複合したもの、人間によって表現されたあらゆる対象を読み取り、分析する。様々な分析方法を研究し、また、それをいくつかの文化表象にあてはめてケーススタディを行う。そうした方法に基づいて、個々の研究テーマについて、研究論文作成指導を行う。「リアリズム」「モダニズム」「ポスト・モダニズム」について研究する。		
		(12 虎岩 直子) アイルランド島を含むイギリス諸島の20世紀以降の文化、あるいはそれに関連する文化についての研究者を育成することを目指し、学生の博士論文提出に主眼を置いた研究指導を行う。		
		(13 美濃部 仁) 真理は、通常さまざまな仕方で覆い隠されている。それゆえ、真理とは何かという問いに答えるためには、真理がどのような仕方で覆い隠されているかを明らかにすることが重要である。古典的思想を正しく理解した上で、それと対話・対決しつつ自らの真理観を表現することができるようになることを目的として研究指導を行う。		
		(14 鈴木 将久) 東アジア（日本、アジア、朝鮮半島など）における近代の意味を深く理解する研究者・研究指導者を育成することを目的として、学生の博士論文執筆に主眼をおいて研究指導を行う。		
コース選択必修科目	「倫理・哲学・宗教」領域研究科目	倫理学特別研究	キリスト教的共同体の理念が崩壊し、市民的な国家と社会が形成されていく16世紀から18世紀のヨーロッパにおいて、倫理学の問題自体がどのように変容していくかを考える。一般的には、コンテキストがテキストをどのように変容させるか、という問題をとりあげる。具体的には、中世における教会と国家との関係を見たのち、ルター、マキアヴェッリから、ホッブズ、ロックをへて、ルソー、カントにいたる倫理的な課題それ自体の変容を、そのコンテキストとの関係において考察する。	
		哲学特別研究	「自己」とは何かを哲学と宗教の歴史に現われたいくつかの思想（仏教、キリスト教、デカルト、フィヒテ、キェルケゴール、西田等）を顧みつつ明らかにすることを試みる。「自己」は、我々に予め与えられているものではない。自己が自明のものでなくなり、自己をあらためて問う中で、我々は「自己」になるのである。授業では、そのような独特のあり方をする「自己」の哲学的・宗教的意味を取り出すことに努める。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(教養デザイン研究科 教養デザイン専攻(D))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コ ー ス 選 択 必 修 科 目	「倫理・哲学・宗教」 領域研究科目	<p>古代インドで発生した仏教は、その後アジア各地に広まっていった。中央アジア・中国・朝鮮半島へと伝来した北伝仏教は、やがて我が日本にも伝わった。その際、文字の読めない多数の民衆を唱導・説教するために様々な説話や絵画・彫像類が作成された。それらは、人々がいかに人生を過ごし、いかなる終焉をむかえるべきかを説いた。本講義では、インドから東アジア各地に仏教思想とともに伝承伝播された「絵解き」と称する唱導文化の内容とその意義、特色について、仏教文化・仏教民俗学の視点に立って考察する。</p> <p>日本人の死生観の変遷を民俗信仰や仏教や神道の展開との関連から辿る。無論、死生観の変化の背景には日本人独自の霊魂観や他界観の推移があり、それをもとに古代から近代までの様々な文献を読みながら日本人の元型的な死生観を抽出する。同時に、現在、共同体や家族の形骸化および医療や葬祭の産業化とともに私たちから死が奪われつつある。死の風化は同時に生命観の稀薄化を招き寄せないはずはない。もとより生と死については豊かな感性や想像力が要求されるものである。生と死の現在を通して、新たな社会改革の方向性を模索する。</p>	
	思想史特別研究	<p>思想史というものがどういうものかを考えていく。特に暴力の問題を主題にとり講義をすすめる。西欧の歴史は、ある意味で戦争と暴力の歴史であった。そしてそのために産み出された思想の多くはいかにこの暴力と戦争を克服するかにささげられてきた。だから、西欧の思想史にとって、これらの主題は特権的なものと言えよう。授業ではこれらの主題を講義しながら、「西欧」とは何か? 「思想」とは何か? 「歴史」とは何か? を問うていく。</p>	
	「文化」 領域研究科目	<p>現代ヨーロッパを構成する地域に関する理解を深めるため、東欧の主に近世史をとりあげ、ヨーロッパ史のなかでのその位置づけについて考える。オーストリアやプロイセンなどの絶対王政が最終的には東欧の多くの地域を取り込んでいったが、その統治下において、以前の時代の社会的統合のあり方は完全には否定されず、貴族身分を主体とする社会組織は近代の入口にいたるまで生き残っていた。授業では、ヨーロッパ東部地域に現れた絶対王政と身分制との独特な関わり方を中心にとどいていきたい。</p> <p>現代世界における文化的アイデンティティの存立とその様相について、分析的に、ときには批判的にアプローチする手法を模索するものである。ここで主要な問題として提起されるのは、現在私たちの文化的アイデンティティに拭いがたく刻印された《西洋近代》を基準として世界をみる《文明》の《物語》と《民族/国民》の《物語》である。アイデンティティの構築は必然的に《他者》を要請するため、文明の物語は《野蛮》を想定し、民族の英雄の物語は《侵犯する外の者》を想定する。そして21世紀初頭の現在、こうした物語と想定の上に《テロ》と戦争の議論が展開しているのではないかと、との問題意識を持って、帝国主義と文化、他者の表象などを分析した書物を取りあげたい。それらの議論を通して、「文明」を論じる手法に批判的な目を養いつつ、悲観に陥らずに「文化」を語る可能性について考えてゆきたい。</p>	
地域文化特別研究	<p>東アジア表象文化論。近年の学界では、東アジアの海域交流の視点から各国の文化の形成について再考する動きが見られる。明治以来の「鎖国」史観も学界レベルでは見直され、「実態としては『鎖国』ではなく『海禁』であった」という共通認識に立脚する研究論文が続々と発表されている。本講義ではこの新しい視点にのっとり、中国の戯曲小説や民歌俗曲が近世日本に与えた影響について、伝播ルートの社会階層差やエスニシティなどの視点に着目しつつ考察を加える。</p>		

## 授 業 科 目 の 概 要

(教養デザイン研究科 教養デザイン専攻(D))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
コース 選択 必修 科目	「文化」 領域 研究 科目	地域文化特別研究	<p>近代ヨーロッパの文化史—警察の誕生</p> <p>ヨーロッパ近世は自由を求めるために警察国家を生み出すというパラドックスを犯した。それは「嫌われる警察」に代わって登場してきた「ありがたき警察」によってなされた。「ありがたき警察」は司法権と行政権を一手に握り、住民の生活の隅々まで干渉していく。「揺り籠から墓場まで」の生活を規制する膨大な警察令が発せられていく。そして絶対主義のなかで「警察国家」が構築されていく。「警察国家」は警察が自立的国家組織として歴史に始めて登場したものである。それは中世の治安の悪さと30年戦争後の無政府状態を一掃し、領主階級の専横と犯罪の恐怖から住民を解放した。この見本がパリ警察であり、一時、パリ警察は世界の7不思議に数えられもしたことがあった。</p> <p>このように近代の警察の誕生は治安と人間の自由の関係を赤裸々に示すものである。本研究は警察の誕生とその発展を見ることで人間の自由の問題を解いていくものである。</p>	
		言語文化特別研究	<p>日本列島の地域文化を民俗学的な観点から歴史的・空間的にとらえることを目的とし、具体的に一つの村落社会を取り上げ、社会組織や祭礼行事を通して地域文化を深く理解することを目指す。</p> <p>具体的な地域として奄美・沖縄を取り上げる。当地域には、独特の祭祀組織によって村が維持されるという、いわば古態の村落共同体の姿がまだ残存しており、社会学や民俗学そして文学研究の立場から学際的な研究対象として注目される。そこで、村落共同体を成り立たせている制度や地域文化を論じていく。その一方で、村落共同体の急速な崩壊に伴い、様々な地域文化が消えつつある現状を踏まえ、それをどのように保存し、同時にそれを生かしながらどのように地域の活性化を創出していくかという課題にも言及していく。</p>	
	言語文化特別研究	<p>印欧語比較言語学研究。インド・ヨーロッパ語族という巨大な概念を、他の語族をも視点に入れつつ、考える。比較言語学の方法に基づいて、比較方法、比較言語学の歴史、過去の言語学者、印欧語の分類、ケントウム語・サテム語、原郷問題、音変化、意味の変化、統語法の変化、書記法、音韻論、名詞、動詞を中心とする形態論、そして他の語族との対照によって言語類型論（孤立語、膠着語、屈折語）を考察する。また、常に、日本語との対比という視点を忘れず、フィードバックを試みるが必要であり、そういう言語学的センスの養成をはかりたい。</p>		
	言語文化特別研究	<p>ジャン・フランソワ・リオタールが「大きな物語は死んだ」という命題を提起して以来、「物語」という語は、さまざまな文脈で多義的に使われている。この語は、今では、伝統的な物語文学から、歴史的・政治的な言説構造までも意味しうようになった。そのため、一方では、「物語」という概念があまりにも拡大されたという批判を生むが、逆に、この概念を中心として、さまざまな領域における言語的表現行為を、統一的な視点から考察する可能性を示している。「物語」概念を詳細に検討することで、私たちの言語文化の構造に迫りたい。</p>		

## 授 業 科 目 の 概 要

(教養デザイン研究科 教養デザイン専攻(D))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース 選択 必修 科目	「平和・環境」 領域 研究 科目	近代日本の平和思想について、その思想的源泉にさかもどり考察し特色について考える。とりわけ、日露戦争に反対した平民社の非戦論をとりあげ、その「絶対的平和論」の思想的な根源となったキリスト教や儒教と社会主義思想との関係について講義をおこなう。日本の初期社会主義思想は、キリスト教徒であった安部磯雄や片山潜らによって紹介され、日露戦争期において幸徳秋水や堺利彦らの非戦論の運動として展開された。本講義では、原文を紹介しながら、その特色を考える。	
		本講義では、「平和」を戦争や紛争がない状態、という狭義に定義するのではなく、貧困、飢餓など経済開発過程から取り残された状態に加え、その過程で発生する経済格差に加え、環境問題、異文化や宗教などに起因する民族・宗教紛争がない状態と広く捉える。それらの「平和」が達成されていない状態を克服し、平和を構築するために、どのような機構、制度の構築が求められ、さらにはそうした制度や機構が機能する条件を比較考察する。対象として取り上げるのは中国を中心とする東アジア地域である。同地域は近年の急速な経済成長に伴い、経済格差（地域格差、農村・都市格差、教育格差など）に加え、大気汚染や水資源問題など、様々な問題を抱えている。これらの諸問題に関する「平和構築」の方途を探ることが大きな目的である。	
		本講義では、「平和」を戦争や紛争がない状態、という狭義に捉えるのではなく、貧困、飢餓など経済開発過程から取り残された状態、保健衛生などから生命の危機に脅かされている状態に加え、環境問題、異文化や宗教などに起因する民族・宗教紛争がない状態と広く捉える。それらの「平和」が達成されていない状態から、「平和」の状態を達成・維持するためには、どのような機構、制度の構築が求められ、さらにはそうした制度や機構が機能する条件を比較考察する。国際比較を行うにあたっては、東南アジア地域を軸にして、スリランカなどの南アジア、さらにはアフリカ諸国を取り扱うことにする。	
	地球環境特別研究	この講義では、環境を人工的に変え続けていく技術として先端生命科学技術を捉え、その応用について考察する。例えば、医療において高度な技術を施すためには多額の費用が必要だが、その恩恵を受ける権利をどのように保障するか。また、エネルギーや食糧の問題の解決に、遺伝子組換え作物という選択肢が提供されたが、これは環境や体への安全性のほか、ひとたび利用し始めると中止が難しい状況となること、さらには知的財産権による闘争といった多数の問題を内包している。これらの難問は、一般市民の視点からの考察では解決できないため、行政および地球規模といった複数の視点を加えて多角的に検討し、それらを総合して結論を出すことを試みる。	
		日本が高度成長期に経験した産業公害をテーマとする。なぜ日本で公害が深刻化したか、公害をいかに克服し、被害者の救済がどのように行われたか（あるいは行われなかったか）などを、かつて公害を経験した地域で近年展開されている水俣学や四日市学を中心に学ぶ。また、急速な工業化のもとで発生するアジアの公害問題を概観し、日本の公害経験をいかに途上国に発信していくかを検討する。	
	科学技術史特別研究	科学技術の発達が人類に与えた影響を評価・分析する。本研究では、人類の歴史の中でも特に特異な位置を占める原子力エネルギーを事例として扱う。この原子力に関する分析は、その重要性はうたわれつつも、専門的な知識を必要とし、さらに機微な技術であるために未だ十分とはいえない。 最初に、1) この科学技術がなぜ、どのように、いつ、誰によって導入されたのか、その背景を考察する。 続いて、2) 現代社会への影響について分析する。そして、3) 将来への展望を考察する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(教養デザイン研究科 教養デザイン専攻(D))

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通選 択科 目	現代教養総合研究	現代日本社会は死を日常世界から放逐してしまっている。死ばかりではない。老人も病人も病院や施設に放逐されており、私たちの国に触れることが少なくなりつつある。その結果どうなったかといえ、生の姿そのものも見えなくなりつつある。本科目は「人間性と その適正な環境の探求」を行うことを目的として、生老病死問題をそれぞれ現代性、東西比較、歴史背景などの観点からメスを入れ、 教員と学生が同じ目の高さからの意見を交わす場である。主たる担当教員が「生老病死の問題」を提議し、その問題に関して、3つの 領域研究コースからの分析と討論を重ね、最終的に学生独自の意見と主張をまとめさせる。	
		本科目は本研究科全体のテーマである「人間性とその適正な環境の探求」を行うことを目的として、3つの研究領域コースから総合的に分析することを目的とする。主たる担当教員が「現代社会に関わる社会問題」を提議し、その問題に関して、3つの領域研究コースからの分析と討論を重ね、最終的に学生独自の意見と主張をまとめさせる。	
		本科目は教養デザイン研究科が掲げる「人間性とその適正な環境の探求」を目的とし、「文化の相互理解」をテーマとする。文化は地域、時代、民族、言語、ジャンルなど、様々に分類される。主たる担当教員がテーマを細分化して、「文化の読み方(2回)」、「文化研究の方法(2回)」、「文化理解の実践(2回)」、「文化と社会(2回)」について、個々の研究を紹介しながら講義する。各小テーマごとに、学生独自の意見と主張をまとめさせ、発表・討論をする(4回)。さらに、小テーマごとの議論を総括し、それを通じて現代人に要求される「教養」とは何かを考える(2回)。	
博士 後 期 課 程	プロジェクト系科目 先端数理科学 I	自然現象(地震、オーロラ、磁気嵐、太陽風、バルサー、気温)、経済現象(株値、為替、GDP、マネーサプライ、通速度)、工学現象(電力)、生命現象(脳波、クレアチニン、心電図、血圧)等の複雑系現象の分野において活躍している国内の研究者を講師陣に迎え、上記の複雑系現象に付随する時系列データの奥に潜む情報を発見、解析する。	※文理融合を目指した大学院講義として開講する研究科間共通科目。修了要件には含まない。
	先端数理科学 II	文理融合科学の中のトピックの一つとして、社会と生態系に現れる複雑現象というテーマを取り上げ、数理科学の視点から講義する。特に、すでに確立した数理モデルの解析ではなく、様々な現象に対するモデリングのプロセスに重点を置き、複雑な現象から本質を抽出するモデリングによって、現象の理解がどのように進むかを解説する。 キーワード： ゲーム理論、行動生態、群集生態、文化伝達、協力行動、進化ダイナミクス	
	Advanced Mathematical Sciences I	ニューロサイエンスに現れる様々な現象の解明に向けてこれまで実験科学、理論科学は飛躍的な発展をしてきたが、現在、我々の前にそれに挑戦するかのような複雑な現象が現れてきている。本講義では特に、Mathematical Modeling of Excitable Cells and Neural Tissue に焦点を当てて、具体的な現象を交えて、その最先端を講義する。	
	Advanced Mathematical Sciences II	本講義では、既存の分野を超えて学際的視点から、数理科学と医学の相補的融合である「数理医学」を紹介する。特に、Mathematical modeling of cancer growth and treatment に焦点を当て、具体的な現象を交えて、その最先端を講義する。数理医学に関する最先端のトピックを取り上げ、特に癌増殖機構の数理的解明に向けて国際的に活躍している研究者を迎えると共に、我が国においてこの分野で活躍している講師陣を迎える。授業は既存の研究科科目を超えて、学際的な視点から行う。授業で使用する言語は英語とし、判定に用いるレポートも英語で書くことを原則とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(教養デザイン研究科 教養デザイン専攻(D))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本古代学 (考古学) I	<p>本講義では、複眼的研究視座を養うため、考古学を主体としたアプローチに加え、日本史学と日本文学に関心を抱き、広い視野からの講義を行う。</p> <p>具体的には、平城宮跡、平城京跡の発掘調査で明らかになっている調査成果を、報告書の原典資料を示しながら述べるとともに、考古学の発掘調査報告書の活用方法を具体的に示すことにする。また、天平12年～17年(740～745)まで、聖武天皇は恭仁京、難波京、紫香楽宮と遷都した。この時期に、このような相次ぐ遷都が行われた要因、あるいは歴史的背景は何だったのか。この課題を、これらの都城の発掘調査成果と、『続日本紀』などの文献史料、さらに出土している木簡などから、総合化して考える。</p>	
	日本古代学 (考古学) II	<p>本講義では、複眼的研究視座を養うため、考古学を主体としたアプローチに加え、日本史学と日本文学に関心を抱き、広い視野からの講義を行う。</p> <p>具体的には、飛鳥時代に営まれた政権をになう中枢部である宮都に関連する都城遺跡の発掘調査では、推古の宮都である豊浦宮、小墾田宮の構造は明らかでないが、孝徳の難波長柄豊碕宮、天智の近江大津宮、天武の飛鳥浄御原宮、持統の藤原宮に関連する遺構が検出されており、7世紀の宮都の実態がかなり判明している。ここでは、近年の調査で明らかになった飛鳥の稲淵川西遺跡、石神遺跡、水落遺跡と斑鳩宮などの宮殿関連遺跡をもふくめて、7世紀に造営された多くの古代都城の実態、本質を考古学資料と『日本書紀』などの文献史料を総合化して述べる。</p>	